

総務文教常任委員会会議録

(令和8年4月28日)

愛 南 町 議 会

愛南町議会総務文教常任委員会会議録

本日の会議 令和8年4月28日(火)
招集場所 議員協議会室

出席委員

委員長	鷹野正志	副委員長	田中純樹
委員	池田栄次	委員	吉田茂生
委員	石川秀夫	委員	金繁典子
委員	中野光博		

欠席委員

なし

出席委員外議員

なし

傍聴委員外議員

なし

職務のため出席した者

議会事務局長	土居章二	主幹	尾川美保
--------	------	----	------

説明のため出席した者

なし

本日の委員会に付した案件

(1) 所管事務調査

「移住を含めた親子留学について」

開会 11時16分

閉会 11時49分

○田中副委員長 それでは、ただいまより総務文教常任委員会を始めます。

最初に委員長の挨拶、よろしくお願いします。

○鷹野委員長 皆さん、今日は3つの会議があるということで、大変お疲れのところ、総務文教常任委員会、皆さん出席ありがとうございます。

今日は、この間の定例会で言いました所管事務調査、移住を含めた親子留学につきまして、今後の流れ、どういう計画でするかということをお皆さんで話し合っていたきたいと思いますので、その辺よろしくお願ひ申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。お願ひいたします。

そうしたら早速、議題に入らせていただきます。

今申し上げましたように、「移住を含めた親子留学について」という所管事務調査でございます。今後、どういう形で進めていくか、皆さんの考えを聞きたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

何かある方、いらっしゃいますか。

石川委員。

○石川委員 他の自治体に、特徴のあるような自治体自体の移住の施策、それと親子留学を絡めた自治体があるところにあると思ひますので、そういう成功事例をいろいろ、机上審査も含めて、進めていったらどうかというふうに思ひます。

○鷹野委員長 ほかに何かありますか。

金繁委員、何かありますか。

○金繁委員 はい。私も、今、文科省のほうが、特色ある学校づくりとか特認校ということで、愛南町に自然豊かな場所で、小規模校に広く、その地区だけではなく広く外からも生徒さんに来てもらえる学校づくりを進めているようですので、そういう先進事例を、自治体を、石川議員がおっしゃったみたいに学んで、愛南町でどういうことができるのかということをお考えたいと思ひます。

今回のタイトルにあるように、移住を含めた親子留学ということで、そういうその教育の内容に興味を持って、移住者が増えているというところが出てきているようですので、特にそういう先進地の調査をできたらと思ひます。

○鷹野委員長 ほかに何かありますか。

中野委員、何かありますか。

○中野委員 まあ今のでええと思ひんですが、今日何を決めると言ってもあれやから、みんながそれぞれ調べて、持ち寄っていただいて、事務局のほうにもちょっと時間が空けば、次回いつやるか分かりませんが、ちょっとこういろいろ調べていただいて、ここら辺りいう候補をまずあれしてもらって、次の回で候補地なりを絞っていきながらやっていったらどうかと思ひますが。

○鷹野委員長 池田委員、何かありますか。

○池田委員 同じです。

○鷹野委員長 はい。

副委員長、何かあったら。

(発言する者あり)

○鷹野委員長 吉田委員、吉田委員。

○吉田委員 取りあえずこれ、最終的にはいつ報告という形になるんですか。9月、9月にはこれ。

継続審議……

○鷹野委員長 継続審査ということ。

○吉田委員 6月を飛ばして、9月くらいに。

○鷹野委員長 まあ9月か12月かということですよ。

○吉田委員 そんなに長期で。

(発言する者あり)

○吉田委員 それ長過ぎない、やることいっぱいありますよね。

すみません、やることいっぱいあるので、もうちょっと短縮して、まあ9月なら9月で切っていて、愛南町のその、この前視察した教員住宅とか、あの辺のあれも全然動いていないので、それも進めていかないかんと思うんですよね。

あとは西海の、例のあの避難所の件、あれも提言しとるので、あれはぜひ、もう芝も張って、道路も開通しとるので、あそこも早急に、もしあれだったら、消防署の防災対策課と連携をしながら、ぜひ住民と一緒に、ぜひ委員会中心になって、中心は向こうでいいと思う、防災課のほうでいいと思うので、そこは進めていかないかんので、もう少し、もうちょっと早めにしたほうがいいんじゃないかなとは思いますが。

先ほどの石川さんの意見には同意で、12月まではちょっと長過ぎるような気がしますけどね、はい、すみません。

○鷹野委員長 ありがとうございます。

ここでちょっと事務局から、皆さん資料、参考資料ということで頂いております。常任委員会における所管事務調査の進め方についてということで、資料を頂いておりますので、事務局からちょっと簡単に説明をお願いいたします。

土居事務局長。

○土居事務局長 それでは、事務局のほうで参考資料をつくりましたので、サイドボックスにあります、本日の、4月28日のフォルダ、参考資料「常任委員会における所管事務調査の進め方について」という資料を御覧ください。

先ほど議長より、もう少しスケジュールを短縮してというような御意見もございました。昨年度、総務文教常任委員会の所管事務調査で調査いただきました教員住宅、そして西海中学校の避難所の関係は、昨年度、定例会のほうで委員長より報告をいただいております。担当課のほうにつきましても、現地調査等、同行いただきまして、その報告についても共有しておりますので、そちらの対応についてはまた執行部のほうと進めていけたらというふうに考えております。

それでは、タブレットの資料を御覧ください。

皆様が行っていただく、常任委員会の所管事務調査活動をより確実に町の施策や予算に反映させるための標準的な運用モデルがあるほうが進めやすいのかなと思いき、作成いたしました。

まず「1 本運用のねらい」を御覧ください。

本指針は、二元代表制の一翼を担う議会として、調査の成果を「町民の利益」へと確実に結びつけることを目的としております。皆様の調査活動をいかにして「町の施策や予算」という具体的な形にするか、そのための一つの「戦術的な目安」として整理したものでございます。

2番目の、「予算反映」を軸とした調査サイクルの確立を御覧ください。

こちらの年間調査スケジュール案につきましては、決して皆様の活動を縛るためのものではなく、執行部の予算編成サイクルから逆算し、いつ、どの段階で提言をぶつけるのが最も効果的かという標準的な目安を示したものでございます。先ほど議長から御提案がありました、9月なりに報告できるようであればそれがよろしいかと思っておりますが、まず標準的な考えとして示したものでございます。9月の決算審査で得た知見を12月の提言へつなげる、こういう流れを一つのパッケージとすることで、執行部が予算を最終調整する最適なタイミングで議会の意思を届けることが可能となるのではないかと考えております。

3番目、裏面の、調査・視察の「質的転換」についてです。

視察を単なる見学にとどめず、本町の課題解決に向けた政策検証の場として機能させていくための工夫です。具体的には、この手法なら愛南町でも展開できるのではないかとといった視点・

仮説を委員会の事前協議において整理した上で視察に臨んでいただくことで、現場でしか得られない解決の鍵を特定し、より具体的な知見を持ち帰ることが可能になるのではないかと考えております。

4つ目、「提言」を前提とした成果のアウトプットです。

調査の成果を町政を動かすための確かな提言として形にしていく必要がございます。そのため、報告書においては、具体的な提言内容や本町への導入の可能性を項目として設けるなどした様式に基づきまして、委員会としての議論の結果を記載していただく運用を検討してはどうかと考えております。議員の皆様の言葉で整理していただくことで、執行部に対して予算化を図る際の強力な裏づけ資料として機能していただくこととなります。

最後に、5つ目、公費の支出に対する説明責任と透明性の確保についてです。

住民の皆様に対し、議会として何を学び、どう政策に生かそうとしているのかを、議会だよりやホームページ等を通じて、速やかに公表してまいったらどうかと考えております。調査の成果を可視化していくことは、公費を用いた活動の正当化を示すとともに、議員活動に対する町民の皆様への信頼をさらに確かなものにするにつながると考えております。

本案につきましては、あくまで執行部の予算サイクルに照らし、皆様の調査結果を最も効果的に反映させるための一つの目安を提示したものでございますので、決して、冒頭に説明いたしましたとおり皆様の活動を縛るためのものではございません。実際の運用に当たっては、各委員会の主体的な御判断を尊重しながら、事務局といたしましてはその活動を実務面で支える準備を整えてまいりたいと考えております。

以上です。

○鷹野委員長 ありがとうございます。今、事務局から説明ありましたが、所管事務調査、こういう流れでやっていくと、非常に分かりやすい説明でした。もちろん、当委員会としてもこの流れでやっていかないといけないというふうに思います。

それで、先ほどから皆さんの、委員の皆さんの意見を聞きました。それにはやはり先進地事例を勉強しながら、本町にとって提言できるものは何かということ調査研究する方向ということで、流れ的にはこの流れでよろしいでしょうかね。

(「はい」と言う者あり)

○鷹野委員長 そしたら、それまでに、一応、その親子留学という言葉、広いと思うんですよ。例えば親子留学って、1か月なのか1週間なのか、それとも何年なのかという、そこからもう始まるし、いろんな広い意味で、さあどうするんだ、里親なのか、寮なのか、それともグリーン・ツーリズムみたいなああいう主義なのか。その辺の可能な、ちょっと資料というか、ちょっと、まあどこからどういうふうに出てくる資料か分からんのですが、そういうちょっと、こともやっぱり視察行く前に、勉強しないといけないなというふうに思っております。その辺は皆さん、いかがでしょうか。

金繁委員。

○金繁委員 おっしゃるとおり、示していただいたスケジュールでも、まずは現状分析とか、現状の資料を集めて、考えておくことが当然必要ですね。

各議員で調べて、こういう課題を解決するためにこういう自治体を視察してみたいというものを出し合うのが一番だと思うんですけど、それをどういたしますかね。今、議長が言われたように、留学といってもね、1か月とか、でも、もう移住してきてくれるのかとかいうことで、私としてはその移住ということを念頭に置いていたんですけど、ほかの皆さんはどうでしょうか。先ほど私言ったみたいに、今、文科省自体が、特色ある学校とか特認校ということで、そういう学校に親子でもう移住してきて、移住者が増えているというところを私は大変興味があり、調査したいと思っています。ほかの方の御意見をぜひお願いします。

○鷹野委員長 石川委員。

○石川委員 まず現状分析をする必要があるので、今の最新の在校生とか、今後入学してくる予想も含めて、どれぐらいの、まあほぼほぼ数字は出ているとは思いますが。

それと、あとはまあ移住を含めた親子留学を進めるに当たっての課題を、やっぱり教育委員会とも共有しとかないかと思はうんですよ。まずそれがあって、次、その特認校、これが進めている特認校の内容がどうなのかと。どういう条件で、どういう補助政策があるのかというところも学ばんといかと思はうんですよ。その上で、次に、成功事例をピックアップして、絞っていくと。絞っていく中で、机上審査もした上で、視察に行けばいいんじゃないかなというふうに思います。

○鷹野委員長 そういう流れでよろしいでしょうか。それで、私の意見じゃないですけど、例えば移住をメインに考えるのであれば、これは、担当課がまた財産管理課の政策対策室か、えっ、何どね。

○土居事務局長 企画財政課の政策推進室。

○鷹野委員長 企画財政課の政策推進室という担当になると思はうんですよ、移住を含めたら。ただ、親子留学ということになったら教育課になるので、学校教育課ということなのでまあその辺、今回のテーマだったらその2つの課がちょっと関わってくるのかなと。事前に研究するのであれば、その2つの課にも参加していただいて、考え方とか、質問とかもしあれば、やっていったほうがいいのかというふうに思はうんですが、いかがでしょうか。

吉田委員。

○吉田委員 できるのであれば、この親子留学については全然賛成なんですけど、できれば南高の魅力化の中の一環として、南高がサッカーが強かった頃は裾野がきちっとできていたわけですよ。そのままこう上がっていったわけですよ。今回まあ中学校か小学校か分からんけども、親子留学をして、それがその南高に、みらい留学に使われるような形で、そうすれば学校、教員住宅は施設として使えるし、そういうこう、何というんですかね、大きな目標をぜひこの総務のほうで考えていただけるような施策を提案できれば、すごい理想。まあ理想論ですよ、今のは、理想論ですけどもそれが一番いいのかと。最後は南高にみらい留学してくれるという人たちが、できればね、募ればいいのかと、そこはちょっと考慮してもらいたいなというふうに思はう。

○鷹野委員長 今、吉田委員からすばらしい意見というか、この親子留学がまたこの南高の魅力化、また南高の寮にまた入るとか、そういった将来的な考えを含めて、つながればという意見でございました。私も全く、ああいい考えだなというふうに思っております。

そしたら、そういう流れで今後進めていくということよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○鷹野委員長 そしたら、次回、いつ頃やるか。ちょっと皆さんで、次回、机上審査、どのぐらいに。一応今、吉田委員からもあったように、9月定例にまとめるのか、12月という、その流れによって、これは決定はちょっと難しいかも分かりませんが、今後の流れからいうて、いかがでしょうか、いつ頃、次回。

石川委員。

○石川委員 先ほど言ったように教育委員会のほうと、先ほど出た企画財政課政策推進室等の現状分析、それと特認校の、特認校とは何ぞやというところも勉強せんといかと思はうので、その辺りはまず執行部のほうに問合せして、現状の課題をまとめていただいて、この机上審査を進める日程を決めたらいいんじゃないかなと。まとめ次第、次の委員会の日程を決めたら、委員長に私は一任いたします。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 私も同意見です。その際、学校教育課のほう、今、未来の学校の在り方検討委員会というのをされていて、まさにそことクロスしてくるのかなと思はう。実際その特色ある学校

づくりしたらどうだろうって何か、委員の方が言われた記録もあるようなので、やっぱりその現状というか、まあまさに今から調べようとされるどころだと思っているので、ちょうどいい感じでクロスするのかなと思っています。全く同意見です。

○鷹野委員長 副委員長。

○田中副委員長 ちょっと今のことについて、ちょっと聞きたいんですけど、現状認識のことがちょっと分からないんですけど、何に対する現状認識なんですか。何を調べればいいんでしょうね。ちょっとそこがちょっとぼやっとして、移住を含めた親子留学についての現状認識ってどういう内容になるんでしょうか。

○鷹野委員長 石川委員。

○石川委員 現状認識、分析というのは、今、愛南町の小学校・中学校が抱えている課題があると思うんですよ。その、人数がどんどんどんどん減っていますから、その部分の課題、それ、先ほど言った特認校とは何ぞやというところも勉強していかないかと思うんですよ。その補助政策とか、それを受けるに当たっての条件とかというのがあると思うので、その辺りをまとめていただいたらいいと思いますけど。

○鷹野委員長 田中副委員長。

○田中副委員長 ちょっとざっくりし過ぎて分からないです。小学校、中学校の課題って、何か、親子留学というのは、おっしゃりたいことは何となく分かるんですけど、すごくざっくりしてません、課題っていっぱいあると思うんです。登校するとか、登校の仕方とかもそうだろうし、人数の問題だったりとか、教育のカリキュラムの問題だったりとかってあると思うんですけど、この移住を含めた親子留学についてというところを基にした小学校・中学校の課題というのは一体、僕はちょっと分からないので、教えていただけたらと思います。

○鷹野委員長 石川委員。

○石川委員 本町では、親子留学も何もやっていないので、その課題とかなんとかというのは出てきません。ただ、現状、小中学校で、不登校等も含めて、課題が山積しているので、その課題について共有していくという意味です。

親子留学というのは今のその生徒数に対する一つの対策であって、そこについては、今現状がない中では、分析もしようがないと思うので、まずは愛南町の小学校・中学校、将来の生徒数含めて、不登校もかなりいるというふうに聞いていますので、その部分の課題を共有した上で、次の対策に向けて、親子留学もしくは移住という形になっていこうかというふうに思います。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 現状と課題なんですけど、広く情報を拾っておくことは必要だと思っています。今、石川議員が言われたみたいに、例えば不登校の子がすごく多いと私も聞いてはいるんですけど、今、実際にどうなっているのか。実際その不登校の子を受け入れる学校、満倉小学校に行くと、学校に来ていない、ほとんどね、登校している子がいない。で、あそこに行っても学習指導がないという大きな課題が実際あるんですけど、じゃあその不登校の子、もしくはそれに近い、たくさん生徒さんがいる学校では通にくいけど、実際に聞くんですね、例えば緑にそういう子が転校してきて、ここなら何とか通えるということが起きているようなので、そういう情報も私たち知って、収集しておくべきだと思いますし、特認校というのはそういうその、特色ある学校とかが、大きな学校には行きにくいけど、そうじゃない学校なら行けるという子を受け入れる学校として、存在しているのかどうかということも調べないといけないですし、そこでそういう特色ある学校ができて、そういう子がたくさん集まって、生き生きとね、勉強できるような学校ができて、外からも来ているということもあるでしょうし、そういうことは全く関係なく、もっと積極的に、自由に、自分が学びたいものを学べるような学校を特認校として始めて、すごく外から来ている、移住者も増えているということもあるようなので。

先ほど議長が言われたみたいに、やっぱりその、少子化で、小中学校、そもそも高校に入るもう子供の数自体が減っている、そこでその裾野を広げるといところが私この、今回の大きな目標かなと思っていて、じゃあ裾野を広げるためにはじゃあ今の町の課題として何なのか。さっき言ったみたいな課題を拾いつつ、裾野を広げるために、その課題解決、もしくはまた全く違う形の特認校のようなものがあるとすればそれも学んでおく。で、愛南町にじゃあフィットするのは何なのかという落としどころを最終的にこの委員会で出していただけたらなと私は考えています。

○鷹野委員長 よろしいですか。

田中副委員長。

○田中副委員長 そうですね。だから、それでいくと、単純に学校だけの問題ではなくて、先ほども言われましたけど、別の課というのもあるけど、居住だったりとか、あと、何だったらその地区、何々地区とかの中のコミュニティーの問題だったりとか、ということとかということ全般になってしまうのかなと思いましたね。

そうですね、知らないより、もちろんそういういろんな情報というのは分かっていないと判断もできないし、必要だなとは思いました。ただ、すごい多いですね。だから、単純に移住を含めた親子留学というだけという、タイトルというか、今回やろうとしているということはそれだけなんですけど、内容としてはすごく深いなと思いました。

最終的に、金繁議員が言われたように定住してもらうとか、もちろんその、議長が言われたように南宇和高校の魅力化につなげて、最終的には住んでもらうというのは理想ではあるんですけど、何かいろいろ見ていたら、調べたら、取りあえずお試しで、数か月で留学してというパターンもあったりするので、当然その、今後そのパターンも勉強しながら、定住につながるということに、というのがゴールに近いことかなと思うので、すみません、ちょっとあれなんですけど、試してになると、またさらに関わる関係の課というのは増えると思うんです。だって商工観光課なのかもしれないし、何だったらU m i d a s (ウミダス) という団体があって、そういうところの課の可能性もあるなというふうに思いました。

以上です。

○鷹野委員長 吉田委員。

○吉田委員 多分これテーマ広いので、不登校とまたその留学とはもう全く違う分野なので、ここは機微な情報と、いろんな問題が出てくるのでそこは分けていって、魅力化は、要するに、極端な言い方すると、高校3年生が最後、受験、その時期はどうか分からんけども、9月ぐらいに1か月間ぐらい留学して、山村留学みたいな形でできるのであればですよ、その後に南宇和高校にどうですかみたいな、その一つの目安としてフィードバックされるような形でいけばいいので、どういう形になるかは私もよく分かりませんが、それにつながっていけばいいのかなと。

現状把握は、だから不登校はちょっと難しいので、親子留学、単純な形で親子留学、もしくは、その形でいったほうがいいんじゃないかなと思います。全体広げるとこれ大変な問題なので。すみません。

○鷹野委員長 池田委員。

○池田委員 今されよる議論というのは、調査進めながら出てくる項目だと思うので、それはもう調査しながらのことで、もうこのテーマで事務調査に入って、その後のみんなが理解した上で、いろんなところを調査研究した上で出てくる議論だと思いますので、その辺をちょっと考えていったらいいと思います。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 私もそう思います。やっぱり短期留学とか、その……

(発言する者あり)

- 金繁委員 じゃあいいです。
- 鷹野委員長 金繁委員。
- 金繁委員 委員長一任というよりも、やっぱり各自、こうね、問題意識持って、こういうところを視察したほうがいいということはやっぱり出したほうがいいと思うので、ね。そうじゃないと委員長一人が。本来なら私たち一人一人が調べて、ちゃんと議論して決めていくことなので、それは一応出し合いませんか。
- 鷹野委員長 中野委員。
- 中野委員 石川議員と金繁議員から出た所管なので、人の何倍ぐらい集めてきていただいて、そこから集中していきたいと思います。それで一任ということでもいいんじゃないかと思います。
- 鷹野委員長 そしたら、もう関係ある課、このテーマでどういうことを考えとるとか、今の現状はどうなのか、その辺を一応、机上審査というか、各課から本町の現状、課題、その辺についてどういう考えを持っとるか。それをまずしていきましようかね。それでよろしいですか。
(「はい」と言う者あり)
- 鷹野委員長 そうしたらその時期については、今、議長一任という形出ましたが、一任でよろしいですか。
(「はい」と言う者あり)
- 鷹野委員長 そうしたら、それぞれこのテーマで、自分なりに研究は進めとってください。そのほか何かありますか。事務局のほう、ありませんか。土居事務局長。
- 土居事務局長 活発な御議論ありがとうございます。
先ほど委員長よりまとめていただきましたが、今回の所管事務調査「移住を含めた親子留学について」ということに的を絞りまして、関係課である学校教育課、そして企画財政課政策推進室、その2つの課に、現状なり課題をまとめるということでもよろしいですか。
(「はい」と言う者あり)
- 土居事務局長 はい。その確認ができればいいです。
- 鷹野委員長 その他、何かないでしょうか。吉田委員。
- 吉田委員 西海のあれをぜひよろしくお願いします。近々をお願いします。ちょっと打合せしてもらって。これボランティアですから、任意参加ですから。
- 石川委員 何を言われとるのがか。
- 吉田委員 いや、この前視察したその西海中学校の跡地の、機材がいっぱいあったじゃないですか。1階は本当は避難所で使いたいいんだけど、機材があり過ぎて、あれをだから持ち出しして、売払いして、荷物をまとめると。それが、グラウンドの芝を張り替えて、道もできて、だけど実際はもう避難所として使えていないということなので、それはこの前提案したとおりに、向こうが主体となって、我々はボランティアで、参加するしないは別にして、町民と行政と一緒にその整理をしていきたいと。これ早急にしてもらいたいということです。
- 鷹野委員長 はい、その辺も担当課に一回話して、どういう現状で進んでいるのか、その辺を確認しておきます。
ほかにありませんか。
(「なし」と言う者あり)
- 鷹野委員長 ないようでしたら閉会の挨拶をお願いいたします。
- 田中副委員長 以上で総務文教常任委員会を終わります。

委員長